

EQUIPE
DE
CINEMA

堂々3時間！ 空想科学映画の最新超大作！ 問題作として注目の芸術巨篇！
1977年の世界的SF映画ブームにさきがけてエキブ・ド・シネマが贈る豪華版！
名作『僕の村は戦場だった』『アンドレイ・ルブシコフ』でソ連映画の惑星と謳われる…

エキブ・ド・シネマ
3周年記念大作・第3弾！

巨匠アンドレイ・タルコフスキー監督作品

シネマスコープ
カラー作品

惑星ソラリス

SOLARIS

Directed by ANDREY TALKOVSKY

ナタリヤ・ボンダルチュク



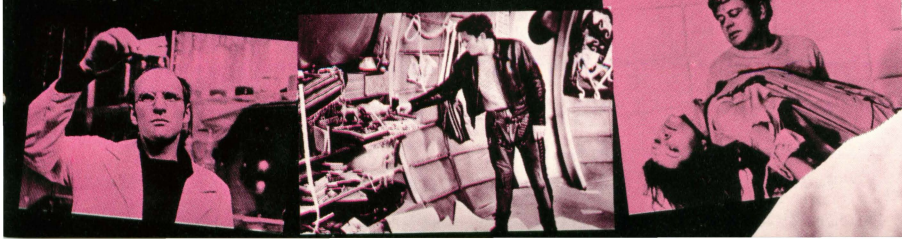
謎の惑星『ソラリス』とは…？
そこには不思議な姿の生命が存在し
その豊かな海は理性を持つ有機体と判明！
これらの謎に挑むモスクワの近代科学陣が
宇宙船で軌道ステーションに出発する！

原作 **スタニスラフ・レム**
脚色 アンドレイ・タルコフスキー
フリードリヒ・ガレンシュテイン
撮影 ワジム・コーソフ

ドナータス・バニオニス
ナタリヤ・ボンダルチュク

ユーリヤ・ヤルヴェルト
ウラジスラフ・ドヴォルジェッキ
アナトリー・ソローニツィン
ニコライ・グリニコフ

1974年度
カンヌ国際映画祭
審査員特別賞・受賞作品



謎と神秘の宇宙！ 今ぞまみえる初のソ連SF映画・驚異の超巨篇！



SOLARIS

惑星ソラリス

●傑作『2001年宇宙の旅』に比肩する新しいSF芸術映画がソ連から打ち出された！ この作品は、未知の世界・宇宙の神秘に挑む人類への警鐘を打ち鳴らす！

原作は、ポーランドのSF人気作家スタニスラフ・レムで、これは彼のベストセラー長篇小説『ソラリスの陽のもとに』の映画化である。彼は「宇宙では未知なものが我々を待っている。だが、宇宙は、銀河系の規模にまで拡大された地球では決してない。それは質的に全く新しいものである」と言い、宇宙の神秘への挑戦は、人間の道徳的な進歩と深くかかわっている、というテーマを打ち出して、それが人間の心と愛の再認識の命題に帰結することを力強く我々に訴える。

監督のアンドレイ・タルコフスキーとフリードリヒ・ガレンシュタインの協同脚色で、撮影はワジム・ユーソフ、音楽はエドアルド・アルテミエフという強力な一流スタッフ。出演者は『ゴヤ』のドナータス・パニオニスのほか、日本でもお馴染みの演技陣が顔を揃えている。ソ連モスフィルムの1972年作品で2部作17巻、上映時間3時間の超大作！

●ソビエト映画にノーベルバーグをもたらした俊英アンドレイ・タルコフスキー監督が、遂にSFに挑戦、宇宙戦争下の戦士の〈人間の内面〉にまで突入する！

監督アンドレイ・タルコフスキーは、1932年生まれ。その処女作品はモスクワの映画大学の卒業制作の小品『ローラとバイオリン』（ニューヨーク学生映画コンクール第1位）で、長篇第1作は『僕の村は戦場だった』（62年ベニス映画祭グランプリ）、第2作は『アンドレイ・ルブリョフ』（67年カンヌ映画祭・審査員特別賞）、第3作がこの『惑星ソラリス』（72年カンヌ映画祭で受賞）と、国際映画祭での連続受賞で、今や世界的な映画作家である。昨75年に新作品の『鏡』を撮りあげて、目下、再度のSF映画の製作（ソ連のストルガツキーのSF小説の映画化）を検討中である。

アメリカのアーサー・クラーク原作の『2001年宇宙の旅』と同様に、この『惑星ソラリス』が訴えるものも、未来というより地球とは次元の異なる未知の世界に入りこんでしまった人間の悲劇であり、私たちの心を捉えるものは映画が語りかける神秘な愛の〈哲学〉である。

●タルコフスキーは未来都市の舞台として東京をロケ地に選んだ。そのエキゾチックな街の夜景の妖しさがカンヌ映画祭で大喝采を博し、今や世界の問題映画！

映画はプロローグ（地上の現実）とエピローグ（惑星での未来）を持つ3時間の大長篇で、ドラマは主として惑星ソラリスに到達した宇宙船の内部で凄絶に繰り展げられる。

心理学者クリス（ドナータス・パニオニス）は重大な任務を帯びて惑星ソラリスに近づいて行く。同行者は物理学者のサルトリウスと医師のスナウトの2人。クリスは、船内に居る苦もない美しい女の姿を或る日発見する。しかも彼女は数年前に若くして死んだ彼の妻ハリー（ナタリア・ボンダルチュク）その人であった！ クリスの驚き！

ソラリスの海は、理性を持つ奇怪な有機体で、地球から来た人間の脳裡に潜在する欲求を物体化する不可思議な能力を持っていて、その1つがハリーであった。しかし彼女には心があり、かつてクリスが語ったことをすべて生々しく記憶していたのだ。ソラリスの海の謎の解明にクリスはふるい立つ……。